

慶應義塾
保険学
慶應義塾

今年で創立60周年を迎える

学生と業界人の交流の場に

慶應義塾保険学会は今年、創立60周年を迎える。日本に保険を紹介した福沢諭吉が設立した慶應義塾大学は長年にわたって多くの保険業界人を輩出しており、同学会は業界人と学者、現役学生の交流の場として独自の地位を築いてきた。保険学教育の衰退と保険業界の厳しい事業環境が指摘される中で、1大学を母体とする団体がどこまで貢献できるのか。運営スタッフに聞いた。

慶應義塾保険学会は3代目となる現在の理事長は、商学部で保険学の教壇に立つ堀田一吉教授(写真前列中央)。堀田教授は「保険学を教える立場としては、大学卒業後の学生とのつながりを維持することが重要だ」と強調する。金融教育が普及していない日本では、はじめから保険業に深い理解を持って入学する学生は少ない。学生が保険の本質に興味を持ち、卒業・就職した後も

業界・産学の枠を超えた交流の場

産学、地域の枠を超えた連携目指す

研究会や講演会では、保険業界人と学生が机を並べて専門家の講義を受け、積極的に質問している。2002年以降は書籍も刊行しており、昨年、学会叢書第4巻として発行した「人口減少時代は、近年、参加者は学外にも広がっている。その一例が、獨協大学経済学部、岡村ゼミ、岡村国和教授(写真前列右)は慶應義塾大学商学部出身で、学生時代から同学会に所属し、現在はゼミの学生たちと共に研究会

総合科学。学生が自分のスタンスで保険に対して考えを深めることが大切で、学生のうちからOBや社会人と積極的に交流することで、卒業後の進路にかかわらず、ここで得た経験や知識を生かす

「三田保険学」発、世界へ
堀田教授や岡本教授を
はじめ、現在、全国各地の大学で保険学の教壇に立つ教員の中には、慶應大学で第2代理事長を務めた故・庭田範秋教授の影響を受けている人が少なくない。
愛知学院大学で現代社会におけるリスクとその対応を中心として教えている田畑康人教授は、庭田教授の直接の門下生。危険選択やアンダーライティンクを専門とする拓殖大学商学部の宮地朋果教授は、庭田教授とともに保険学の教壇に立った前川寛教授の門下生で、後に堀田教授の教えも受けている。「三田保険学」の人脈が全国の大学で活躍していることを生かし、今後はこうした他大学の学生の参加推進や、地方での講演会も検討している。
また、会員の多くが保険会社で海外勤務を経験



堀田教授(前列中央)と学会運営スタッフ



昨年の講演会

は学外にも広がっている。その一例が、獨協大学経済学部、岡村ゼミ、岡村国和教授(写真前列右)は慶應義塾大学商学部出身で、学生時代から同学会に所属し、現在はゼミの学生たちと共に研究会

ことにできるし、学会やゼミの輪も広がる」と意義を強調する。
また、商学部以外から保険業界に進んだことがきっかけで同学会と出会った卒業生もいる。泉瑞則氏(写真後列右から二番目)は損保協会入社後、協会内の先輩から同学会の幹事を引き継ぐ形で入会。損保料率算出機構への転籍を経て現在まで、学術界や生保業界との交流の場として生かしてきた。常務理事を務め

わっている。学生だけで
視点から保険業界とかかわっている。学生だけで
は、庭田教授とともに
川寛教授の門下生で、後
に堀田教授の教えも受けて
いる。「三田保険学」
の人脈が全国の大学で活
躍していることを生か
し、今後はこうした他大
学の学生の参加推進や、
地方での講演会も検討し
ている。
また、会員の多くが保
険会社で海外勤務を経験